

-日商簿記3級検定試験-

第1問(仕訳)項目別対策

#6

～今回の対策項目～

- ・ 貸付金
- ・ 借入金
- ・ 手形貸付金
- ・ 手形借入金
- ・ 役員貸付金
- ・ 役員借入金



解説動画URL

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



第1問(仕訳)項目別対策

<日商簿記3級検定試験について>

- ・試験時間：60分
- ・合格点：70点以上

	第1問【仕訳問題】	第2問【その他】	第3問【決算関連】
主な出題内容	現金預金 商品売買 貸付金・借入金(利息の計算) 仮払金・仮受金 固定資産(購入・売却等) 訂正仕訳 消費税・法人税 株式会社会計 決算整理・決算振替 剰余金の処分・配当 伝票の推定 証ひょうの読取り	勘定記入(T字勘定) 補助簿の選択 理論問題(語句穴埋め) 伝票(伝票の記入) 伝票(仕訳日計表) 商品有高帳 固定資産台帳	精算表の作成 損益計算書・貸借対照表の作成 決算整理後残高試算表の作成
配点	45点(3点×15問)	20点	35点
おすすめの解答手順	①(15分)	③(15分)	②(25分)
ポイント	ここで確実に高得点を! 目標は13問(39点)以上	初見で「難しい!!」と思わず冷静に! 確実に取れるところから部分点を!	時間を意識しつつ高得点を! 貸借の合計が一致しなかった時は 「必殺後回し!!」で次に進むこと!

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題1》

得意先A社に対して貸付期間6ヶ月、年利率5%という契約で現金100,000円を借用証書にて貸付けていたが、本日満期日のため、利息とともに現金で返済を受けた。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

○用語○

借用証書…お金の貸し借りを証明する書類
元金(元本)…実際に貸し借りする(利息を含まない)金額
年利率…1年間の元金に対する利息の割合

●Point●

利息は「貸付時(借入時)」に計上する場合と「回収時(返済時)」に計上する場合があるので文書からしっかり読み取ること。



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題2》

取引銀行から借入期間9ヶ月、年利率3%という契約で現金200,000円を借入していたが、支払期日が到来したため、利息とともに現金で返済した。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

○用語○

借用証書…お金の貸し借りを証明する書類

元金(元本)…実際に貸し借りする(利息を含まない)金額

年利率…1年間の元金に対する利息の割合

●Point●

利息は「貸付時(借入時)」に計上する場合と「回収時(返済時)」に計上する場合があるので文書からしっかり読み取ること。



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題3》

借入金(元金均等返済)の今月返済分として元金50,000円と利息が普通預金口座から引き落とされた。なお、利息は未返済額800,000円に年利率3.65%を適用し、30日分の日割計算(1年は365日とする)をした額である。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

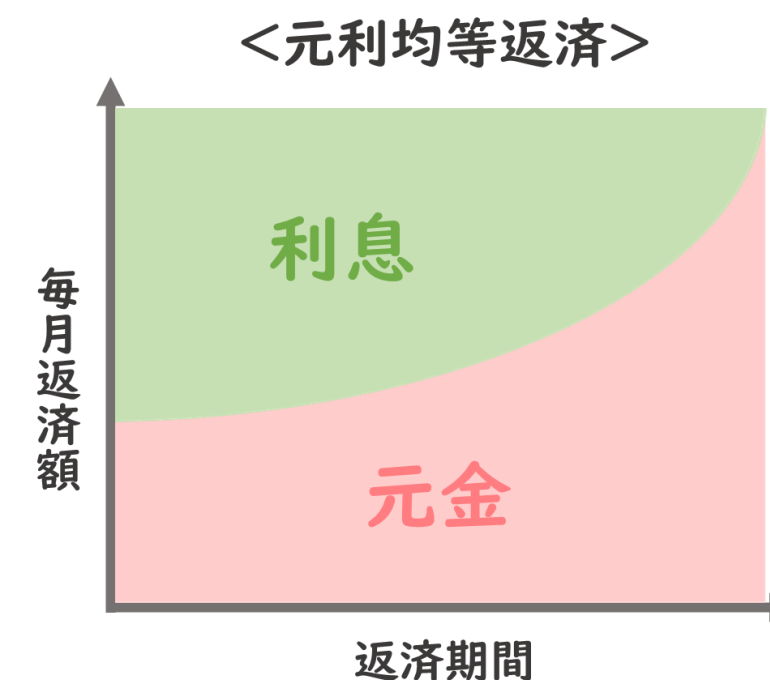
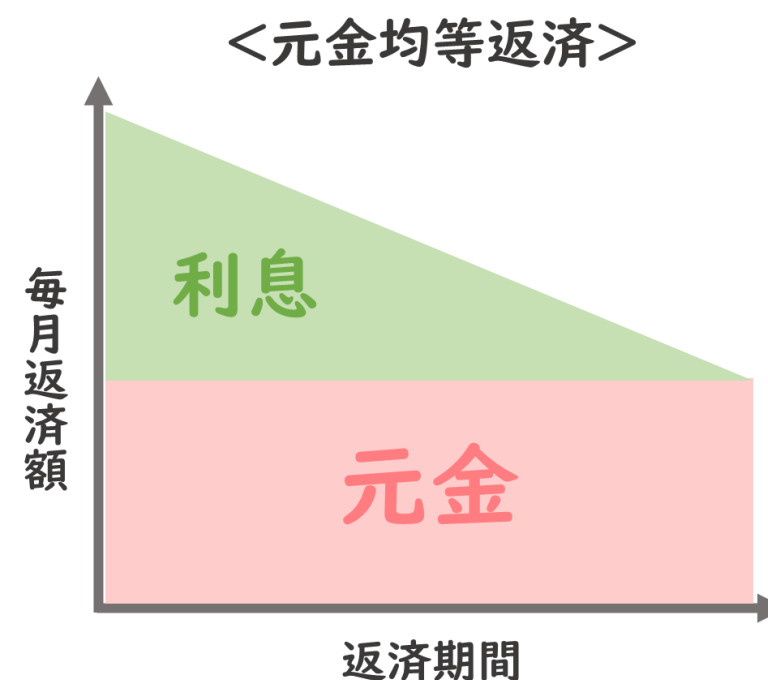
【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

○用語○

元金均等返済…元金を均等に返済する返済方法

元利均等返済…元金と利息の合計額を均等に返済する方法



第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題4》

A社から借入期間4ヶ月、年利率6%の条件で800,000円を借入れた。その際、同額の約束手形を振り出し、利息を差し引いた手取金が当座預金口座に振り込まれた。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

<参考>

約束手形を振出す借入れ(手形借入)は、主に「短期」で「少額」の借入れを行う場合に用いられます。返済期間が1年以上の「長期」となる場合や「高額」の借入れになる場合は、借用証書を交わすのが一般的です。

●Point●

利息は「貸付時(借入時)」に計上する場合と「回収時(返済時)」に計上する場合があるので文書からしっかり読み取ること。

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題5》

A社から貸付期間4ヵ月、年利率6%の条件で800,000円の貸付け依頼を受けたため、同額の約束手形を受け取るとともに、利息分を差し引いた残額を当社の普通預金口座からA社の普通預金口座に振り込んだ。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

$$\frac{800,000 \times 6\%}{48,000\text{円(1年分)}} \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \frac{16,000\text{円}}{4\text{ヶ月分}}$$

<参考>

約束手形を受け取る(手形貸付)は、主に「短期」で「少額」の貸付けを行う場合に用いられます。貸付期間が1年以上の「長期」となる場合や「高額」の貸付けとなる場合は、借用証書を交わすのが一般的です。

●Point●

利息は「貸付時(借入時)」に計上する場合と「回収時(返済時)」に計上する場合があるので文書からしっかり読み取ること。

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題6》

当社の代表取締役であるA氏に資金を貸し付ける目的で600,000円の小切手を振り出した。ただし、重要性を考慮して通常の貸付金勘定とは区別して処理することにした。なお、貸付期間8ヶ月、年利率2%で、利息は元金とともに受け取る条件となっている。

～利息の計算方法～

【月割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{月数}}{\text{12ヶ月}}$$

【日割計算】

$$\frac{\text{元金} \times \text{年利率}}{\text{1年分の利息}} \times \frac{\text{日数}}{\text{365日}}$$

<参考>

役員貸付金は、会社が役員に対してお金を貸している(=役員が会社からお金を借りている)状態であり、会社にとってのメリットは一切ないものである。銀行からの融資にも悪影響(事業のために融資しているのに、個人的なことに使用されている点など)を与えるため、できるだけ発生させず、発生させた場合でもすぐに解消する必要がある。また、役員貸付金は一般の貸付けと同様に、必ず利息をつけて返してもらう必要がある。

第1問(仕訳)項目別対策

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

《問題7》

当社の代表取締役であるA氏から、個人資産の現金300,000円を借入期間4ヶ月、無利息の条件で借入れ、普通預金口座に入金した。

●Point●

通常の借入金とは区別するため、「役員借入金」勘定で処理する。

<参考>

役員借入金は、利息の設定が任意、返済期限を設けなくて良いなどのメリットがあるが、会社の資金不足を個人(役員)に補ってもらっている状態であることは変わらない。そのため、経営管理を問題視され、銀行からの融資に悪影響を与える場合がある。(例えば、本業で利益を出せずに、個人のお金でカバーして会社を存続させている状態がビジネスになっていない点など)そのため、資金繰りに余裕があるタイミングで返済を行っていくのがベストである。